

コミュニケーションを深めるために心懸けること

家族間のコミュニケーションに悩む元学生から次のような初メール。

「先生は 係わり続ける大切さについてお話をされていたと思うのですが、係わり続ける と言ってしまうと、こんなに難しい事はないと最近つくづく実感します。どうやって、どのくらい係わっていけばよいのか 正直分かりません。」

次のように返信した。

「身近な人だからいつでも理解し合えるというものでなく、個々の人間であり、お互いの立場、背景が異なるから気持ちのすれ違いが生じるのは当然で、異なるからこそコミュニケーションが更に必要になると考えています。

今、丁度障害児のご家族とのコミュニケーションについてレポートを作成中で、その中でコミュニケーションを深めるための心懸けに触れた部分がありますので、参考までに。

【 当事者（家族）と係わり合う折に留意すること。

☆相手を理解するのでなく、相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築く。

そのために

- 1) 係わり合い、寄り添い続ける覚悟のあることを伝える。
- 2) こちらの想いを先に伝えず、相手の心情の言葉に共振しながら発信する。
- 3) ささやかなことでも、周りの人と、及び、家族間でも係わり合うことの喜びを感じてもらうように工夫し、伝える。
- 4) 信頼感を抱いてもらうように、相手の発信を受信したことを、あまり間を置かずに必ず受信行動を発信する。
- 5) 家族それぞれが、まず一人の人間として生きる力を育んでもらえるように、ヒントを提供する。 】

正直、上記を読んでも具体的なやり取りは浮かばないと思います。

コミュニケーションとは、相手との相互交渉の具体的様相（やり取りの時空）そのものですから、まずはこちらの側のコミュニケーションを深めるための『心懸け』、または『留意すること』と、レポート上は表記するしかない訳です。

後はそれらを参考にしながら、自らも『生きる力を育む』ことを心懸けつつ、相手と相互交渉の経過の中であなたなりの工夫をし続けるしかないだけに、『こんなに難しい事はない』というのも当然なこととも云えます。

まずはいつまでもあなたと相互交渉し、『ヒントを提供』できるかと思しますので、いつでもメールでお尋ねくださいね。」